年報　タイ研究　No.20, 2020　25－53.

【論 文】

タイ語の視覚動詞ดูの文法化について
――ベトナム語、中国語、朝鮮語及び日本語との通言語学的研究――

On the Grammaticalization of a Visual Verb ดู in Thai
―― Cross-Linguistic Study with Vietnamese, Mandarin Chinese, Korean and Japanese ――

山　﨑　雅　人*
YAMAZAKI Masato

The present paper analyzes the usage of a visual verb in Thai, namely ดู, which is used to show conation after the verbal phrase with ลอง 'to try, test out'. The verb ดู has the original meaning of 'see', and also functions as a conative marker to show actions in an attempt. The conative marker is considered to be in the earlier stage of grammaticalization; the word is also used as an experiential marker in the second phase of grammaticalization, and it works as a conjunctional marker when it stands at the end of the former part in a logical sentence to show presupposition. This is the highest degree of grammaticalization of the verb.

The word ดู is used as a grammaticalized lexical item as well as a content word; this is a phenomenon labelled "divergence", which is a typical feature in the grammaticalization of the Thai language. [cf. Hopper 1991: 22] The word as a conative marker is constrained to be used only after volitional verbs, because it has the meaning of volitional visual perception; this is an example of "persistence" that is a concept in functional linguistics. [cf. Hopper 1991: 22] When this word is combined into several adverbial phrases, they function as evidentiality markers to imply the modality of a speaker.

These usages in Thai are compared with usages in other Asian languages such as Vietnamese, Mandarin Chinese, Korean and Japanese. The paper demonstrates that there is a difference in degree of grammaticalization amongst verbs of visual perception in these languages.

1．はじめに

中国語の視覚動詞“看”《見る》が試行の意味を有することになる文法化という現象は、中国語の南に位置するタイ語にも見られる。すなわち、「目で見る」という意味を表すดูは、単独で動詞の後に置かれても、また「試みる」という意味の動詞ลองに後続しても、「試しに～してみる」という意味で用いられる。本稿は、試行の意味を持つดูに関して、文法化に関連する諸特徴のうち、「主観化」（subjectification）、「漂白」（bleaching）、「分岐」（divergence）及び「保持」（persistence）等の概念を適用して分析し、その機能をベトナム語のxem《見る》、中国語の“看”、朝鮮語の보다《見る》及び日本語の「見る」と比較することで、試行のマーカー[1]として用いられるこれらの文法化語彙に関する考察を行う[2]。

本稿は、「漂白を受ける語彙項目は‘go’や‘see’のような一般的な意味を持つ語に限られるようで」

*大阪市立大学

［秋元 2014：5］に関して[3]、言語構造の差異に応じた見方を提示すると共に、この現象に関する当該言語間のクラスター[4]的な対比の視座を提起するものである。

２．試行と文法化について

本稿で論じる「試行」とは、次のように定義される。すなわち、「動作主が、物事の良否・真偽や能力の程度などを知るためにある動作を実際に行うことで、調べ確かめようとすること」である。この場合、特定の動作を行う目的は、予め動作主が抱く期待や予測などを確認するためであり、その行動に動作主の心的態度が伴う。例えば、「食べてみる」は、ここでの特定動作を表す「食べ」に助詞「て」が付き、最後に試行マーカーの「みる」が続いている。つまり、主に「身体動作」と「心的態度」を表す形式からなると見ることができる。そして、「食べてみた」と言えば、その味などが期待していた通りであったか、最低でも食べることができる物であったかを判断するために食べた場合などに用いる。

「試行」を心的態度のひとつと見る考えは、［Bybee et al. 1994：320］に見られる[5]。そこでは動作主志向のモダリティのひとつとして、「動作主が、述語により特定される動作を完遂しようとする」と定義されている[6]。視覚動詞が試行モダリティを意味するようになるのは、ある目的のために特定動作をして調べようという動作主の心的態度が、以下で見るように、この動詞の多様な意味の中に生じた結果と言うことができる。但し、試行モダリティは、可能性や義務のような典型的モダリティとは異なり、動作主の意志性が前面に出るものである。これは、後にタイ語などの例で見るように、「目で物を見る」と言う意味の複数個の動詞の中でも、意志的な視覚行為を含意するものが試行という行為に関連することにも表れていると考える。

本来の「目で見る」という意味から試行モダリティの意味への移行は、「主観化」（subjectification）[7]の例である。言い換えれば、試行マーカーดูの成立は、試行モダリティ[8]の意味（発話の場における動作主の意志を伴う見方や態度の意味）がดูの語義の中に取り込まれた結果と見なすことができる。

これに適用する文法化という現象は、以下のように定義される。すなわち、「実質的意味を持つ語（＝内容語）が特定の構文の中で機能的意味を担う語（＝機能語）として用いられるようになる通時的現象」である[9]。それにより、ひとつの機能語が多様な機能を担うようになることもある。文法化はひとつの言語にとどまることなく、歴史的に大規模な交流のない言語間でも類似した現象として観察されることがあり、通言語学的視点からも興味深い現象と見られる。

文法化の典型例としては、英語be going toの用例が取り上げられる。［cf. Hopper and Traugott 2003：68-69；93］

（1）He is going somewhere to see her.

（2）He is going to see her.

（3）He is going to love her.

（4）He is gonna love her.

例文（1）では「どこかに移動しつつある」という元来の空間移動の意味であるが、例文（2）になると現在時制の空間移動（「彼女に会うために移動している」）のみならず未来時制の表現（「これから彼女に会う」）とも解釈できる。例文（3）では、「愛する」という心理動詞であるため、空間移動よりも未来時制の表現の方が自然な解釈となる。さらに、例文（4）では語形縮約が起こり、意味的にも未来時制の助動詞としてのみ用いられる。ここには、文法化の一般的傾向である、空間的表現が時間的表現に先行するという現象を見ることができる[10)]。

このように、文法化によって限られた言語資源を「使いまわす」ことにより、人は有用かつ多様な表現形式を得ることができる。この現象は、多くの言語に見られることから、高名な比較言語学者A.メイエが言語研究において早くから注目してきたことが知られている。［cf. メイエ 2007］

言語を比較するときには、一定程度の共通基盤の上に立つと共に、それぞれの言語でどこからが異なりその固有の特徴を有するかを見ることで、考察の対象とする諸語間の位置関係を定めることができると考える。その際、文法化のような現象を扱うことで、具体的な通言語的研究が可能になる。また、本稿では、アジアという地理的に限定された範囲の複数言語を扱うことで、クラスター的な差異に基づく関係を見出すことができると考える。

３．視覚動詞の多義性と試行マーカー

本稿で扱う視覚動詞は、どの言語においても基礎語彙のひとつであると共に、一般的に多様な意味を有するという特徴を担う。これは、人は日常において視覚器官を通じて外界の状況を把握することが多いからであり、目を通して単に外部の様子を知るだけではなく、それをいかに受け入れるか、またその後どのような反応をするかまで意味するので、様々な意味に用いられるようになったと考える。

例えば、『広辞苑　第七版』では、日本語の「みる【見る・視る・観る】」の基本的意味を「自分の目で実際に確かめる。転じて、自分の判断で処理する意。」として、その下位記述を以下のように記している[11)]。

❶目によって認識する。①目で物の存在や動きを感じ取る。視覚で認識する。②ながめる。望む。③人にあう。④夫婦の契りをする。⑤ある出来事に遭遇する。⑥よく注意して観察する。❷判断する。①物事を判断する。みなす。評価する。②占って判断する。③目にとめた文字の意味を知る。読む。④鑑定する。⑤診察する。⑥内容を調べる。調査する。⑦感覚を働かせて確認する。善し悪しなどをためす。⑧（助詞「て」を介して動詞連用形に付いて）㋐ためしに…する。㋑（「…てみると」「…てみたら」「…てみれば」の形で）ある事実に気付く、またはある事実が成り立つ条件を示す。…すると。

…したところが。❸物事を調べ行う。①取り扱う。行う。②過ごして行けるよう力添えする。世話をする。面倒をみる。③（「看る」とも書く）看病をする。❹（僧の忌詞）仏前に供える花を切る。

この記述の順に従えば、「❶目によって認識」して、それによって様々な「❷判断」をし、その判断に基づいて「❸物事を調べ行う」こととなる。なお、❹はジャーゴンである。

また、朝鮮語の보다《見る》には、以下の意味の記述が『朝鮮語大辞典』にある[12)]。

①（目で）見る，眺める，観察する；見物する，鑑賞する；（新聞などを）読む，取る：②（人・物事に）あう，遭遇する，出会う：③（事務を）執る、（仕事・用事を）見る，する：④（家・店などの）番をする，守る，子守をする：⑤（損・得を）する，受ける，被る：⑥（試験を）受ける：⑦（食べ物の味を）見る：⑧（大小便を）する：⑨（生きているうちに孫などを）みる，（子・孫などが）できる，生まれる，（嫁・婿を）迎える：⑩（品物を売買するために市・市場に）行く：⑪（手相・骨相などを）見る，占う⑫（品物の値を）見る，見積もる，定める，つける：⑬（好機などに）めぐりあう，（おもしろいことが）ある，（ある結果を）見る，得る，（ある関係を）結ぶ；〔ママ〕⑭（膳の）支度をする：⑮（情夫または情婦が）ひそかにつきあう，（社会的道徳に反する）男女関係を結ぶ，密通する：⑯（あるものの状態や内容などを観察したり知ったり判断するために）見る，見極める，調べる，診断する、診察する：

中国語の“看”《見る》についても、『中国語大辞典』には、以下の記述がある。

①見る．読む．②（ようすなどを見に）訪れる．③診る；病人が診察を受ける．医者が診察する．④観察する；⑤（…と）考える，思う；⑥…によって決まる；⑦気をつけろ．用心しなさい；⑧めんどうをみる．⑨応対する．⑩見計らって（…する）．⑪…してみる；⑫（カイコを）養う，飼う、飼育する；

さらに、ベトナム語のxem《見る》にも「1．見る，眺める．2．子細に見て調べる，注意して見る．3．読む．4．見なす，見立てる．」という意味が『詳解ベトナム語辞典』に記述されている。

タイ語の視覚動詞ดูには、以下の意味が記述されている。

見る、世話をする、ようく注意してみる、勉強する、見たところ～のようだ、占う、（試みに）～てみる［冨田 1997］

（物を）見る、面倒を見る、番をする、～して見る、運勢などを見る、～だと見ている、様子や成り行きを見る［岡 2012］

「占う」という特定的な情報収集の仕方を視覚動詞が表すのは、「人相や星座図を見る」占い師が多い

から[13] で、特殊な能力をもって将来に関する判断を行うことにこの動詞を用いていると考えられる[14]。

視覚動詞の語彙体系に関して、日本語と朝鮮語では少数の視覚語彙が様態を表す副詞と共起する「分析型」であるのに対し、タイ語、ベトナム語や中国語は、視覚情報への接し方により異なる語彙を用いる「統合型」である点が異なっている。

日本語

「見る」＞「じっくり**見る**」「さぐるように**見る**」「ちらっと**見る**」など

朝鮮語

보다《見る》＞지그시 쳐다 **보다**《じっと見る》、뚫어지게 **보다**《ジロジロ見る》、흘끗 **보다**《ちらりと見る》など

タイ語

จ้อง	cɔ̂ɔŋ	《凝視する、注視する》
ชม	chom	《鑑賞する、眺める》
ดู	duu	《（意識を集中して）見る、～のように見える》
เพ่ง	phêŋ	《見つめる》
มอง	mɔɔŋ	《眺める、見る》
แล	lɛɛ	《見る》
สังเกต	sǎŋkèet	《観察する、注目する》
เห็น	hěn	《見える、見かける、…と見ている》
เหลือบ	lɯ̀ap	《ちらっと見る》

ベトナム語

ngắm	《子細に眺める、鑑賞する》
nhìn	《見る、眺める、観察する》
thấy	《見る、見える、感じる、…と思う》
trông	《見る、眺める、…に見える、面倒をみる、監視する》
xem（coi[15]）	《見る、眺める、注意して見る、読む、見なす、見立てる》

中国語

睹 《見る》

观 《眺める》

见 《目にふれる、見える》

看 《見る、読む、会う、観察する、診察する、…と思う》

览 《見る・目を通す》

目 《目する》

瞧 《見やる、眺める》

觑 《目を細めてじっと見る》

视 《よく見る》

睃 《横目に見る》

瞻 《仰ぎ見る》

张 《見回す》

分析型にせよ統合型にせよ、見方に関する言語表現が複数あるという事実は、人が物を見る様態が様々であることを反映していると考える。

そのなかで、試行マーカーへの文法化を受けるのは、意志的な視覚行為を表す動詞の方であることも共通している。すなわち、日本語では「見る」に対する「見える」、朝鮮語では보다対보이다《見える》、中国語“看”対“见”、ベトナム語xem対thấy、そしてタイ語のดู[16] 対เห็น[17] では、いずれも試行マーカーとなりうる視覚動詞は、意志的な視覚行為を意味する前者の方で、これは試行ということ自体が話し手の意志の下に行われるものであることに基づく、これらの言語に共通の基盤であると考える[18]。

４．視覚動詞の文法化

(1) 朝鮮語と日本語の例

多義的な視覚動詞を試行の意味に用いる時は、「目で見る」という最も基本的な意味に制約されることはない。例えば、日本語で「目を閉じて耳を澄まして**みる**」と言う時は、視覚行為は成立していない。このように、文法化におけるひとつの段階として、意味の抽象化（＝対象の語彙が持つ意味の中から特定の意味だけを残して他を捨てる）と見なされる現象を、［Heine 2003：579］や［Sweetser 1988：390］では「漂白」(bleaching)[19] と呼ぶ。先に挙げた英語のbe going toが空間移動と時間移動の両方を表せるところからbe gonnaでは後者のみに限られるようになることや、イギリス英語でhave got toと言う時のgotには入手の意味が消失していることなどが、その具体的な事例と見なされる[20]。

この現象は、「脱意味化」(desemanticization) とも言われる。［Heine and Reh 1984：36］によれば、それ

は、“… a lexical item receives a second, non-lexical function, which may ultimately become its only function.”という現象のこととして定義され、また、［Heine 2003：579］は、この現象について次のように述べる。“Desemanticization results from the use of forms for concrete meanings which are reinterpreted in specific contexts as more abstract grammatical meanings ….”すなわち、本稿の例に当てはめれば、「目で見る」という意味の語彙項目が、「試しにする」という非語彙的機能のみを持つようになることであり、日本語の例で言えば、ある動詞の語根に助詞「て」を介して「みる」が接続する構文において、「目で見る」という具体的な意味から試行という「より抽象的な」の文法機能的意味に再解釈された結果、この用法が定着したものである。

形態論レベルの構造に関して膠着語的とされる朝鮮語や日本語で、視覚動詞を試行マーカーに用いる例は、以下の例文（5）（6）とその訳文が示す通りであるが、その構造は後述の孤立語的とされるタイ語などは異なる。すなわち、統語面ではSOVの基本語順を持つこれらの言語では、本動詞が連用形となり、その直後に試行マーカーが立つ。これらの文では試行の意味はこのマーカーだけが担うので、連動詞句構造を持ち実質的意味の動詞と試行マーカーからなるタイ語などとは異なり、機能的意味（試行モダリティ）を表す試行マーカーだけからなる副動詞句構造である[21]。［cf. Narrog et al. 2018：170-171］

(5) 일본　음식을　한번　먹어　**본**다.
日本　飲食ACC　一度　食べる　CNV
「日本食を一度食べて**み**る」

(6) 그의　아이디어를　잘　생각해　**봐.**
彼GEN　アイディアACC　よく　考える　CNV.IMP
「彼のアイディアをよく考えて**み**なさい」

この視覚動詞の漂白は、［Heine 2003：591-592］の‘the bleaching model’では、ab>bと表記される。このモデルの事例として挙げられているのは、指示詞が定冠詞あるいは三人称代名詞になって直示的な意味を喪失することと数詞に由来する不定冠詞の意味の縮小的変化である。本稿の例に当てはめれば、視覚動詞の「目で見る」という意味をaとし試行モダリティの意味をbとすると、多義的動詞として複数の意味‘ab’からなっている「みる」が、「～てみる」という形式になることで視覚行為の意味を持たず試行マーカーとして機能する単体bとなることを表す[22]。

また、［Heine 2003：579］は、文法化に以下の三段階を提示している。

i　There is a linguistic expression A that is recruited for grammaticalization.
ii　This expression acquires a second use pattern, B, with the effect that there is ambiguity between A and B.
iii　Finally, A is lost, that is, there is now only B.

ここでは、まずひとつの表現Aに文法化が生じることで、別の用法Bにも使われるようになりAB両用（もしくは混用）の段階を経て、最後はBのみが残るという通時的モデルを表している。Heineの‘the bleaching model’は、このiiからiiiの部分を指すと考える。

視覚動詞には基本的意味である視覚行為に付随する精神的活動としての理解を含むことが多い[23]。見ることで視覚情報を受容し、それを顧みることで行ったこと自体を評価する意味が生じる。試しに何かをすることは、それがする価値のある行為であったかを再考することでもある。例えば、「食べてみる」ことは、ただ食べるだけではなく口に入れた物の主に味覚の評価に直結する。見ることが単に視覚情報の受容だけで終わらずに、話し手自身の物の見方と定義される「主観」（subjectivity）に基づいて意識の中に生じる「評価」や「予測の確認」という心的態度に直につながることで、視覚動詞に試行の意味が生じると考える。

（2）タイ語、ベトナム語と中国語の例

タイ語の視覚動詞は、前述のように複数あるが、その中で試行マーカーとなるのはดูである。この言語で試行を表す言い方は、「～することを試みる」という意味の動詞ลองを動作動詞の前に置き、動詞句の後に視覚動詞に由来するマーカーを置く構文である[24]。

(7)	ผม	ลอง	กิน	ผัดไทย	**ดู**
	phŏm	lɔɔŋ	kin	phàt-thay	**duu**
	1.SG	試みる	食べる	パッタイ	CON

「僕はパッタイを食べてみる」

(8)	ไม่	ต้อง	บอก	ให้	ผม	คิด	**ดู**	ก่อน	ดิ
	mây	tɔ̂ŋ	bɔ̀ɔk	hây	phŏm	khít	**duu**	kɔ̀ɔn	diʔ
	NEG	必要である	教える	CAU	1.SG	考える	CON	先に	PRT

「言わないで。まず私に考えさせてみてよ」

(9)	คุณ	ลอง	พูด	ภาษา	ไทย	**ดู**
	khun	lɔɔŋ	phûut	phaasăa	thay	**duu**
	2.SG	試みる	話す	言語	タイ	CON

「君、タイ語を話してみなさい」

(10)	ผม	ลอง	ใส่	เสื้อ	ตัว	นี้	**ดู**	ได้	ไหม
	phŏm	lɔɔŋ	sày	sʉ̂a	tua	níi	**duu**	dâay	máy
	1.SG	試みる	着る	服	着	この	CON	AUX	INT

「僕、この服を着てみてもいいですか」

動詞ลองと試行マーカーดูが動詞句を挟む連動詞句構造に相当する形式は、以下の例文（11）（12）で見るように、言語類型論上、統語論レベルで同じ基本語順SVOのベトナム語や中国語にも見出せる。この三言語とも、「試みる」を意味する動詞が動作主の行為を意味する動詞句に先行し、その後に視覚動詞に由来するマーカーが続く構文を持つ。

（11）Cácbạn　thử　nghĩ　**xem**.
皆さん　試みる　考える　CON
「皆さん、考えてみてください」

（12）这次　就　来　试　尝　**看看**　吧！
今度　すなわち　進んで　試みる　賞味する　CON　PRT
「今度は試しに味わってみましょう」

上述の動詞句を挟むタイ語の連動詞句構造では、「試みる」という行動を表す動詞ลองと視覚動詞に由来する試行モダリティマーカーดูが、それぞれ実質的意味と機能的意味を担う[25]。上の例文（8）のように、動詞ลองを用いずマーカーดูだけを用いることもあり、この点は例文（13）（14）のように、ベトナム語や中国語も同様である。

（13）Chị　hãy　nhớ　lại　**xem.**
姉さん　IMP　思い出す　再び　CON
「姉さん、思い出してみなさい」

（14）好　想要　一次　吃吃　**看**　日本各地的　月见团子
とても　～したい　一度　食べる　CON　日本各地の　月見団子
来　比较　**看看**　喔！
進んで　比較　CON　PRT
「一度は食べてみて、日本各地のお月見団子を比べてみたいと思っているよ」

(3) 試行マーカーから経験を表すマーカーへ

下の例文（15）(16）とそれらの訳文は、経験を表す意味で視覚動詞に由来するマーカーが使われている、朝鮮語と日本語の例である[26]。なお、本稿では、「経験」の定義を、「悲惨な**経験**をする」「人生何事も**経験**だ」などの例が表すように、「ある行為を行うことやそれで得られる知識や技能」とする。

(15) 그　비행기는　작년에　처음　타　**봤**어요.
DEM　飛行機TOP　昨年LOC　初めて　乗る　EXP.PST.POL
「その飛行機は昨年初めて乗って**み**ました」

(16) 어제　김치찌개를　처음으로　먹어　**봤**어요.
昨日　キムチチゲACC　初めてINS　食べる　EXP.PST.POL
「昨日キムチチゲを初めて食べて**み**ました」

タイ語母語話者によれば、こうした朝鮮語や日本語で経験を表す「(初めて) ～してみる」という言い方に相当するタイ語の文では、以下の例文 (17) のように試行的意味を表す動詞ลองとดูが共起する言い方も、例文 (18) のようにดูだけを使う場合[27] もあると言う。

(17) ปีที่แล้ว　ลอง　นั่ง　เครื่องบิน　**ดู**　เป็นครั้งแรก
piithîilɛ́ɛw　lɔɔŋ　nâŋ　khrɯ̂aŋbin　**duu**　penkhráŋrɛ̂ɛk
昨年　試みる　乗る　飛行機　EXP　初めて
「昨年飛行機に初めて乗ってみました」

(18) เมื่อวาน　กิน　นัตโต　**ดู**　เป็นครั้งแรก
mɯ̂awaan　kin　náttoo　**duu**　penkhráŋrɛ̂ɛk
昨日　食べる　納豆　EXP　初めて
「昨日納豆を初めて食べてみました」

これら三言語で、経験を表すときに視覚動詞由来のマーカーを用いるのは、そこでは話し手がある行為をして、それからどのような知識や技能、あるいは語る価値のある記憶を得たかを聞き手に伝える機能があるためと考える。それが話し手にとってある時までは未経験のことであれば、その時にはじめてしてみたことが、新たな知識や技能もしくは記憶として受け入れられることになる。例文 (15) (16) だけでなく、タイ語でも例文 (17) (18) ではเป็นครั้งแรก《初めて》という表現を示すことで、未知のことが既知になった、語る価値のある経験として聞き手に伝えることができる。

経験したことを言う時に試行マーカーと同じ形態素を付けるのは、本来は別個の機能である、「実際に行って調べること」を意味する試行と「ある行為を行うことやそれで得られる知識や技能」である経験が、人が意図的な活動を通して何らかの知見を得るという点で共通していて、意味機能としてつながるためと考える。

この経験マーカーとしての用法は、文述語末尾に近い位置に立つ試行の用法に始まり、次節で見る、文中で従属節述語末尾に置かれて前提を示す節連接用法へと至る機能変化の過程において、中間的な段階に位置すると考えられる[28]。

下の日本語例文（19a）で使われる「～みたら」の機能は、前掲の『広辞苑』の項目⑧㋑にある、「ある事実に気付く」であると考える。この例文（19a）は、例文（15）(16）と同じく「ある行為を行うことやそれで得られる知識や技能」を意味する経験として、「買った後に偽物であるという（予想外の）事実を知った」という話し手の心情を反映した文言になっていると考える。朝鮮語も同様である[29]。

（19a）万年筆を買って**みたら**偽物だった。

（19b）만년필을　사　**보니**　가짜였다.
万年筆ACC　買う　EXP.CND　偽物PST
「万年筆を買ってみると偽物だった」

これらに近い形式のタイ語文では、以下のようにดูを使う表現は、経験よりも試行の意味に解釈される。

（19c）พอ　ลอง　ซื้อ　ปากกาหมึกซึม　**ดู**　ก็
phɔɔ　lɔɔŋ　sɯ́ɯ　pàakkaamɯ̀ksɯm　**duu**　kɔ̌ɔ
～した時　試みる　買う　万年筆　CON　そして
พบ　ว่า　เป็น　ของปลอม
phóp　wâa　pen　khɔ̌ɔŋplɔ̌ɔm
～と分かる　CMP　COP　偽物
「試しに万年筆を買ってみると、偽物と分かった」

これらの例の対比が示すように、視覚動詞に由来する語彙を用いて経験を表す場合、タイ語は日本語や朝鮮語ほどの自由はないと考える。日本語「～みたら・みると・みれば」や朝鮮語 -아/어 보니《～てみると》にある「ある事実に気付く」という意味がタイ語のマーカーดูにはなく、上の例文（17）（18）のように単文かつเป็นครั้งแรก《初めて》という表現と共起するのでなければ、試行マーカーとしての解釈が優先すると考える。

なお、タイ語と統語構造的に類似しているベトナム語と中国語は、こうした経験を表すときにそれぞれxem《見る》や“看”《見る》を用いることはない。

５．文中の論理関係に用いられるดู

以下の例文（20）は、論理関係を表す文としてふたつの部分から構成される（二つの文が連続していると見るか、二つの節が連なって一文となっているとするか、どちらの解釈も可）。この例は、前のดูを含む部分が主節として結論部分（聞き手への働き掛け）を表し、後ろの部分は従属節であって前提部分

（理由）を表すものと解釈される。つまり、前の部分が表す意味内容を前件、後ろの部分が表す意味内容を後件とすると、前件が結論で後件が前提として機能していると解釈される。

(20)	คุณ	ลอง	กิน	อาหาร	นี้	**ดู**	สิ	ครับ	อร่อย	นะ
	khun	lɔɔŋ	kin	aahǎan	níi	**duu**	sì	khráp	arɔ̀y	náʔ
	2.SG	試みる	食べる	食品	この	CON	PRT	PRT	美味しい	PRT

「あなた、この料理を食べてみて下さいね。美味しいですから」

前件が成就することをもって後件が成立するという論理関係で結ばれる文では、前件を論理関係の前提部分（後件が成立するための要件）と呼ぶとすれば、後件をその結論部分（前件から導かれる帰結）を表しているものと解釈できる。例えば、食べることとその味を賞味することは手段と（それがもたらす）結果ととらえることもできるため、以下のようにถ้า《もしも》を文頭に立てることで前提となる節を明示し、一文にまとめることもできる。

(21)	ถ้า	ลอง	กิน	**ดู**	จะ	รู้	ว่า	อร่อย	นะ
	thâa	lɔɔŋ	kin	**duu**	càʔ	rúu	wâa	arɔ̀y	náʔ
	もし	試みる	食べる	CON	AUX	知る	CMP	美味しい	PRT

「もしも食べてみたら美味しいと分かりますよ」

ここで視覚動詞に由来するดูは、「もし試しに～してみれば」を意味するถ้าลอง～ดูという構文を形成する一部分として用いることではじめて、論理関係中で前提を明確に表示することになる。(21）の冒頭にあるถ้าという前件を明示する部分がなければ、言い換えれば（20）のようにดู単独では、前提部分を表す節連接マーカー（前提マーカー）としては機能しないということになる。これは、次節で見る非意志的事態との不適合と併せて、「ดูの完全な節連接マーカーへの文法化が未だ確立していない」という本稿の考えをより強固に裏付けることになる[30)]。

他方、膠着語の日本語と朝鮮語では、例文（22）～（25）が示すように、視覚動詞に由来する「～みたら・みると・みれば」や**보면**《～みれば》、**보니**《～みると》は前件末に置かれ、論理関係を明示する連接マーカーとして単独で機能できる。これがタイ語との違いである。

(22) ふと気づいて**みると**、以前の自分が、ずいぶんと変わっていることが分かった。

(23) 大きな期待を寄せられた新技術も、完成して**みれば**、たちまち多くの欠点が明らかになった。

(24) 알아　**보면**　좋은　사람　인데
分かって　CNJ.CND　良い　人　なのだが
「分かってみれば、良い人なのだが」

(25) 바쁘다　**보니**　문안도　못갔다.
忙しい　CNJ　見舞いも　NEG 行く PST
「忙しかったので見舞いにも行けなかった」

前件は視覚動詞が文法化したマーカーを持ち後件がそれにつながる形式は、以下のように、ベトナム語でxemを、中国語で“看”を用いた構文にも同様に見出せる。以下の例は、(26a)(27a)(28a) がタイ語、(26b)(27b)(28b) がベトナム語、(26c)(27c)(28c) は中国語の例である。

(26a) นัตโต　ญี่ปุ่น　ดู　ไม่　น่า　กิน　แต่　ถ้า　คุณ
náttoo　yîipùn　duu　mây　nâa　kin　tɛ̀ɛ　thâa　khun
納豆　日本　見える　NEG　AUX　食べる　しかし　もし　2.SG
ลอง　กิน　**ดู**　จะ　รู้　ว่า　มัน　อร่อย　นะ
lɔ̀ɔŋ　kin　**duu**　càʔ　rúu　wâa　man　arɔ̀y　náʔ
試みる　食べる　CON　AUX　分かる　CMP　それ　美味しい　PRT
「日本の納豆は美味しくなさそうに見えるけれど、あなた、食べてみればそれは美味しいよ」

(26b) Món　này　nhìn　có　vẻ　không　ngon,　nhưng　anh　lắm　đó.
種類　この　見る　～に　見える　ない　美味しい　しかし　兄　とても　それ
ăn　thử　món ăn　này　**xem**,　thực ra　nó　ngon
食べる　試みる　食べ物　この　CON　実際は　あれ　美味しい
「この類は美味しくなさそうに見えるが、兄さん、この料理を食べてみれば、それはとても美味しいよ」

(26c) 这个　菜　外观　显　得　不好，　但
この　料理　外見　～に見える　PRT　よくない　但し
吃吃　**看**　的话，　意想不到地　味道　不错。
食べる　CON　～ならば　思いがけず　味　かなり良い
「この料理は美味しくなさそうに見えるが、食べてみれば、意外とかなり美味しい」

(27a) เสื้อ ตัว นี้ ดู ฉูดฉาด แต่ พอ
suʉ̂a tua níi duu chùutchàat tɛ̀ɛ phɔɔ
服 着 この 見える 派手な しかし ～した時
เขา ลอง ใส่ **ดู** ก็ รู้สึก เหมาะ กับ เขา ดี
khǎw lɔɔŋ sày **duu** kɔ̂ɔ rúusʉ̀k mɔ̀ʔ kàp khǎw dii
3.SG 試みる 着る CON それから 感じる 似合う ～に 3.SG 良い
「この服は派手に見えるが、彼女が着てみると、彼女によく似合っているように感じられる」

(27b) Mặc dù nhìn hào nhoáng, nhưng nếu cô
着る けれども 見る 派手な しかし もし 3.SG.F
mặc **xem** thì bộ này tương xứng bất ngờ.
着る CON ～ならば 部 この 似合う 意外に
「派手に見えるが、彼女が着てみたら、この服は案外似合っている」

(27c) 这 件 衣服 看起来 是 很 华丽, 但
この 着 衣服 ～に見える COP とても 華やか 但し
要是 你 穿穿 **看** 的话, 应该 也 会 很
もし 2.SG 着る CON ～ならば 当然 も AUX とても
合适 呢。
似合う PRT
「この服は華やいで見えるが、もしあなたが着てみれば、きっとお似合いに違いありませんよ」

(28a) ถ้า คุณ ไม่ ลอง ทำ **ดู** ยังไง ก็ ไม่
thâa khun mây lɔɔŋ tham **duu** yaŋŋay kɔ̂ɔ mây
もし 2.SG NEG 試みる 行う CON どうして も NEG
สำเร็จ แน่นอน
sǎmrèt nɛ̂ɛnɔɔn
成功する 絶対
「もしあなたがやってみなければ絶対に成功しない」

(28b) Nêu bạn không thử **xem** bạn sẽ không bao giờ
もし 友 NEG 試みる CON 友 FUT NEG いつも
thành công.
成功する
「もしあなたがやってみなければ絶対に成功しないだろう」

(28c) 但是，　如果　不　试试　**看**　的话，　就
しかし　もし　NEG　試みる　CON　～ならば　すなわち
永远　不会　成功　了。
永遠に　できない　成功する　PRT
「しかし、もし試みてみなければ、永遠にうまく行かないでしょう」

前掲の例文（19a）（19b）（19c）も、上記の論理関係構文と同じくふたつの部分からなる。

(29a＝(19a))　万年筆を買って**みたら**偽物だった。
(29b＝(19b))　만년필을　사　**보니**　가짜였다.
万年筆ACC　買う　EXP.CND　偽物PST
「万年筆を買ってみると偽物だった」
(29c＝(19c))　พอ　ลอง　ซื้อ　ปากกาหมึกซึม　**ดู**
phɔɔ　lɔɔŋ　sɯ́ɯ　pàakkaamɯ̀ksɯm　**duu**
～した時　試みる　買う　万年筆　CON
ก็　พบ　ว่า　เป็น　ของปลอม
kɔ̂ɔ　phóp　wâa　pen　khɔ̌ɔŋplɔ̂ɔm
そして　～と分かる　CMP　COP　偽物
「試しに万年筆を買ってみると、偽物と分かった」

これらに近い意味を表すタイ語文として、視覚動詞ดูを用いて例文（29d）のように述べることもできる。

(29d) ลอง　ซื้อ　ปากกาหมึกซึม　มา　**ดู**
lɔɔŋ　sɯ́ɯ　pàakkaamɯ̀ksɯm　maa　**duu**
試みる　買う　万年筆　来る　見る
「試しに万年筆を買って来て見た」
ก็　เป็น　ของปลอม
kɔ̂ɔ　pen　khɔ̌ɔŋplɔ̂ɔm
そして　COP　偽物
「すると偽物だった」

ここでは、直示動詞มาの直後にดูが来る構文が用いられている。この文は「試しに万年筆を買って来て（その万年筆を）見たのだが、偽物だった」と解釈でき、ดูは実質語として目で見ることを意味する[31)]。

次の例も同様である。

(30)	ไทย	กับ	ญี่ปุ่น	อยู่	ไกล	กัน	แต่	ถ้า	
	thay	kàp	yîipùn	yùu	klay	kan	tɛ̀ɛ	thâa	
	タイ	と	日本	在る	遠い	互いに	しかし	もし	
	คุณ	ได้	ลอง	ไป	**ดู**	สัก	ครั้ง	ก็	จะ
	khun	dâay	lɔɔŋ	pay	**duu**	sàk	khráŋ	kɔ̂ɔ	càʔ
	2.SG	AUX	試みる	行く	見る	少し	回	そして	AUX
	รู้จัก	ญี่ปุ่น	มาก	ขึ้น					
	rúucàk	yîipùn	mâak	khuûn					
	知る	日本	多く	～になる					

「タイと日本は互いに遠くにあるが、もしあなたがほんの一回でも試しに行って（日本を）見るということが実現したならば日本のことをより多く知るでしょう」

この例でも直示動詞ไปに後続しているดูは、実質語の意味「実見する」として、視覚行為を意味すると解釈される[32]。

これらの例は、ลองが先行し動詞とดูがそれに続く形式で、表面上は論理関係構文と似ているが、そこではดูが実質語として解釈されるので、タイ語では視覚動詞の実質語用法は失われないままで実質語用法と機能語用法が共起すると考える。タイ語だけでなくベトナム語や中国語などの孤立語的性格を持つ言語の視覚動詞の文法化には、先に見た［Heine 2003：591-592］の‘the bleaching model’よりも［Hopper 1991：24-25］の「分岐」(divergence)[33] を適用して見るべきと考える。

［Hopper 1991：22］によれば、divergenceは、“When a lexical form undergoes grammaticalization to a clitic or affix, the original form may remain as an autonomous element and undergo the same changes as ordinary lexical items.”と定義される。すなわち、文法化を経て機能語となった後にも同じ形態素が実質語としても用いられ通常の語彙変化を被る現象である。

タイ語の視覚動詞ดูは、機能語としては試行や経験のマーカーに、また論理関係を表す構文で用いられると共に、例文（29d)(30）のような場合では試行用法の時と同じ構文のまま実質語としての意味を維持する。これは、膠着語の日本語や朝鮮語で、それぞれの視覚動詞が、「～てみる」や -아/어 보다[34] という文法化した形式で用いられると試行用法に限定されて、「目で見る」という実質語の意味での解釈が通常はできなくなる（言い換えれば、この形式では実質語の意味が「漂白」される）こととは異なると考える。タイ語などの視覚マーカーでは、形式に伴う漂白が見られないので、「分岐」の方がその性格をよりよくとらえていると考える。

孤立語的な形態素構造を持つタイ語などの文法化では、音形や意味の変化を伴わず、多様な意味機能を持つことが多く、「ハイブリッド形態素」[35]（多機能語（a polyfunctional word））と呼ばれる。本稿で扱うดูもその一例と見なすことができ、元々の実質的・語彙的な「目で見る」という意味を持ちながら、同時に機能的・文法的な試行や経験などの意味も表すことができる多機能語と見なせる。統語環境や談話の文脈によって、実質語として解釈するのか、機能語としてか、さらにどのような機能を持つ語として見るべきかがその都度決められると考える。

なお、［Ansaldo et al. 2018：226-227］は、‘EMSEA’（=East and Mainland Southeast Asian）諸言語について、ひとつの形態素がその音的・形態的変化を被ることなく様々な多機能性を担うことを論じている。そして、［Ansaldo et al. 2018：229］は、“Some bleaching occurs, but widespread polyfunctionality undermines the semantic dimension of canonical grammaticalization in EMSEA languages.”と述べ、タイ語、ベトナム語や中国語を含むこの地域の言語においては、「漂白」が一部に見られるものの、広範に及ぶ多機能性が標準的な文法化の意味範囲を侵食しているとまとめている。

６．動詞の意志性による制限

日本語では例文（22）のように「気づいて**み**ると」と言う他にも「知って**み**たら」「分かって**み**れば」と言え[36]、朝鮮語でも例文（24）のように알아 **보**면《分かって**み**れば》と言えるが、ベトナム語のbiết《知る》やhiểu《分かる》、中国語の“发觉”《悟る》や“知道”《知る》などの非意志性動詞には、それぞれの言語で試行マーカーに用いられるxemや“看”はつかない。これは試行ということ自体が、本来意志によって行われるからと考える。

タイ語においては、以下の例のように、เข้าใจ《理解する》には動詞ลองと試行マーカーのดูを組み合わせて用いることが可能で、またลองだけでもほぼ同じ意味を表せるが、ดูのみだと不自然になる。これは、試行を表す動詞ลองに比べて、視覚動詞に由来する試行マーカーดูの意味的自立性が低いためと考える[37]。例えば、日本語の「彼の事情を分かってみれば、同情することになるだろう」にあたるタイ語文は、以下の三通りのうち、はじめのふたつに比べて（31c）は容認度が落ちると母語話者は言う。

（31a）

ถ้า	**ลอง**	เข้าใจ	สถานการณ์					
thâa	**lɔ̌ɔŋ**	khâwcay	sathǎanakaan					
もし	試みる	分かる	事情					
ของ	เขา	**ดู**	ก็	จะ	รู้สึก	เห็นใจ	เขา	นะ
khɔ̌ɔŋ	khǎw	**duu**	kɔ̂ɔ	càʔ	rúusɯ̀k	hěncay	khǎw	náʔ
の	3.SG	CON	そして	AUX	感じる	同情	3.SG	PRT

(31b) ถ้า **ลอง** เข้าใจ สถานการณ์
thâa **lɔ̂ɔŋ** khâocay sathǎanakaan
もし 試みる 分かる 事情
ของ เขา ก็ จะ รู้สึก เห็นใจ เขา นะ
khɔ̌ɔŋ khǎw kɔ̂ɔ càʔ rúusɯ̀k hěncay khǎw náʔ
の 3.SG そして AUX 感じる 同情 3.SG PRT

(31c) ถ้า เข้าใจ สถานการณ์
thâa khâocay sathǎanakaan
もし 分かる 事情
ของ เขา **ดู** ก็ จะ รู้สึก เห็นใจ เขา นะ
khɔ̌ɔŋ khǎw **duu** kɔ̂ɔ càʔ rúusɯ̀k hěncay khǎw náʔ
の 3.SG CON そして AUX 感じる 同情 3.SG PRT

さらに、これらの例のเข้าใจを、意志性を持たない動詞รู้《知る》に入れ替えรู้～ดู《～を知ってみる》にすると全て不可となる。これは、รู้が「知っている」という非意志的状態を含意するためと考える。動詞รู้を使うなら、次のように試行マーカーを使わない言い方が自然となる。

(32) ถ้า รู้ สถานการณ์
thâa rúu sathǎanakaan
もし 知る 事情
ของ เขา ก็ จะ รู้สึก เห็นใจ เขา นะ
khɔ̌ɔŋ khǎw kɔ̂ɔ càʔ rúusɯ̀k hěncay khǎw náʔ
の 3.SG そして AUX 感じる 同情 3.SG PRT
「もし彼の事情を知っているなら、同情することになるだろう」

なお、以下のように、「理解するという事を行ってみる」であれば、試行マーカーのดูを使えるが、その場合の動詞句ทำความเข้าใจには意志性が認められる。

(33) ถ้า **ลอง** ทำ ความ เข้าใจ สถานการณ์
thâa **lɔ̂ɔŋ** tham khwaam khâocay sathǎanakaan
もし 試みる 行う 事 理解する 事情

ของ	เขา	**ดู**	ก็	จะ	รู้สึก	เห็นใจ	เขา	นะ
khɔ̌ɔŋ	khǎw	**duu**	kɔ́ɔ	càʔ	rúusuùk	hěncay	khǎw	náʔ
の	3.SG	CON	そして	AUX	感じる	同情	3.SG	PRT

タイ語、ベトナム語と中国語の三言語で、試行マーカーが意志的活動を表す動詞句としか共起できないという制約は、それぞれのマーカーとなる視覚動詞が前述のように意志的な視覚情報受容を表すところから、元々の実質的意味に関連する意味が保持され、使用制約を引き起こす「保持」（persistence）の例である[38]。

「保持」（persistence）の定義は、［Hopper 1991：22］によれば、“When a form undergoes grammaticalization from a lexical to a grammatical function, so long as it is grammatically viable some traces of its original lexical meanings tend to adhere to it, and details of its lexical history may be reflected in constraints on its grammatical distribution.”である。すなわち、文法化を経ても元の意味を維持している現象を言う。

意志性の有無が試行マーカーに関与している点で、タイ語はベトナム語や中国語と同じく、日朝両語より制約が強いと考える。

７．視覚動詞に由来する証拠性表現

証拠性（evidentiality）は、［Aikhenvald 2004：3］では以下のように定義づけられる。“Evidentiality is a linguistic category whose primary meaning is source of information….To be considered as an evidential, a morpheme has to have ‘source of information’ as its core meaning;…”すなわち、「証拠性」は情報源に関する言語的カテゴリーのひとつで、証拠性を有すると見なされる形態素は中核的意味として情報源を持つ必要がある。「証拠性」は、話し手が事象を直接知覚することで獲得する「直接証拠性」と推量や伝聞などにより得る「間接証拠性」に下位区分される。

［Aikhenvald 2004：63-66］では、証拠性体系の意味的パラメータが論じられているが、そこでは、はじめに‘VISUAL’が立てられ、聴覚などの他の感覚器官から得られる情報である‘SENSORY’から分けて別扱いにしていることからも、目で見て得られた情報が証拠性の有用な根拠となることは多くの言語において観察されることが分かる。

日本語の「見る」から生じた「～**み**たい」[39]は、認識的モダリティの表現のひとつとして、話し手が特定の情報や知識に対する確信の程度を表す文法化した証拠性マーカーと考えられる。朝鮮語でも視覚動詞から生じた-나 **보**다[40]《～らしい》や -를/을까 **보**다[41]《～しようか》は動詞に後続して話し手の推量や意思を表す。

朝鮮語では、この視覚動詞の文法化は主観化の次の段階にある「間主観化」（intersubjectification）[42]にも及んでいると考えられる。すなわち、-**볼**게요[43]《～させていただきます》という表現は、보다《見る》を

用いて聞き手に敬意を表す機能を持つ。これは、視覚行為という客観的な言述から推量などの主観的な表現に転化するという「主観化」(subjectification) を経て、話し手だけでなく聞き手の立場にも関与する敬意表現となったものと考える。

これに対して、タイ語のดูが単独で文法化によりこうした主観的表現になることはない。タイ語の証拠性表現の中には、例えば、以下の例文 (34) (35) のดูเหมือน《～みたいだ・のようだ》のように、統語構造上、文頭あるいは述語の直前（主語はない場合もある）に生起し、視覚動詞起源の形態素を構成素として含む文修飾副詞句[44] として、話し手の推量[45] を表すものがある。統語的な特徴は異なるものの、上記の日本語や朝鮮語の主観的表現と同じく、視覚動詞に由来するタイ語の副詞句ดูเหมือนも証拠性の面では近い機能を有すると考える。

(34) ได้ยิน　เสียง　ฝี　เท้า　**ดู**เหมือน　ว่า　มี　ใคร
dâyyin　sǐaŋ　fǐi　tháw　**duu**mɯ̌an　wâa　mii　khray
聞こえる　音　力　足　EVD　CMP　在る　誰
กำลัง　มา
kamlaŋ　maa
～している　来る
「足音が聞こえる、誰かが（近づいて）来ている**みたい**」

(35) หนัง　เรื่อง　นี้　**ดู**เหมือน　ว่า　ไม่　ค่อย　ประสบ
nǎŋ　rɯ̂aŋ　níi　**duu**mɯ̌an　wâa　mây　khɔ̀y　prasòp
映画　篇　この　EVD　CMP　NEG　少し　体験する
ความ　สำเร็จ　เท่าไร　นะ
khwaam　sǎmrèt　thâwrày　ná?
事　成功する　それほど　PRT
「この映画は思ったほどあまりうまく行かなかったようですね」

タイ語と同様に、ベトナム語[46] の **xem** chừng《～ようだ》、**xem** ra《～らしい》や中国語[47] の“**看**来”[48] “**看**起来”“**看**上去”《～のようだ・らしい》なども視覚動詞をその一部に持つ副詞句である。但し、これらもタイ語同様に文修飾副詞句であり、日本語「～みたい」や朝鮮語 -나 **보**다とは統語的にも、さらに意志を表現できる朝鮮語 -를/을까 **보**다とは機能的にも異なると考える。

(36) **Xem** chừng　việc　này　khó　thành.
EVD　仕事　この　～し難い　成る
「これは成功しそうに思われない」

(37) **Xem** ra　việc　ấy　có thể　thànhcông.
EVD　仕事　その　AUX　成功する
「どうやらその仕事は成功するようだ」

(38) **看**来　实行　颇难。
EVD　実行する　難しい
「見たところ実行はかなり難しそうだ」

(39) 天　阴下来　了。　**看**起来　要　下　雨　了。
空　曇って来る　PRT　EVD　AUX　降る　雨　PRT
「空が曇ってきた。雨が降りそうだ」

(40) **看**上去　这　件　事　难以　成功。
EVD　この　件　事　～難い　成功する
「たぶんこの事は成功し難いだろう」

但し、タイ語と統語構造に共通性を持つベトナム語と中国語でも、視覚動詞をその一部に組み込んで主観的機能を果たす副詞句は、タイ語ほど多くはない。タイ語には、前掲のดูเหมือนの他にも、ดูを持ち間接証拠性を表すものとして、以下の表現がある。

ดูจะ　《～らしい、～のように見える》
ดูท่า　《～のようだ、～らしい》
ดูท่าทาง（ว่า）　《(相手の様子を見て）～のようだ》
ดูประหนึ่ง（ว่า）　《まるで～のように見える)》
ดูราวกับ　《～のように見える・みたいだ・らしい・ようだ》

各例文とそれぞれの統語的並びに機能的特徴は、以下の通りである。

(41) ก็　**ดู**จะ　ยากเกิน　ทำ　ใจ
kɔ̂ɔ　**duu**càʔ　yâakkəən　tham　cay
そして　EVD　難しすぎる　作る　心
「それで気持ちを落ち着かせるのはたいへん難しいようだ」

この表現は、文頭には立たず、述語の直前のみに置かれる。この副詞句も、視覚動詞からできているとは言え、見て得られることだけではなく、間接証拠性に属する情報を導く。

(42) **ดู**ท่า　ฝน　จะ　ตก
duuthâa　fŏn　càʔ　tòk
EVD　雨　AUX　降る
「雨が降りそうです」

この副詞句は、文頭か述語の直前に立つ。視覚だけでなく聴覚に基づいて述べる、間接証拠性のカテゴリーに入る表現に使えるとのことである。

(43) คุณ　พ่อ　คุณ　**ดู**ท่าทาง　ดุ　จัง
khun　phɔ̂ɔ　khun　**duu**thâathaaŋ　dù　caŋ
2.SG　父　2.SG　EVD　怖い　PRT
「あなたのお父さんは怖そうね」

このดูท่าทาง（ว่า）も最初に取り上げたดูเหมือนと同じく、文頭か述語の直前に置かれ、話し手が持つ間接証拠性情報を提示する機能を持つ。

(44) เธอ　สวย　**ดู**ประหนึ่ง　นางฟ้า
thɔɔ　sŭay　**duu**pranɯ̀ŋ　naaŋfáa
3.SG　きれい　EVD　天使
「彼女は天使みたいにきれいだ」
(45) เธอ　สวย　**ดู**ราวกับ　นางฟ้า
thɔɔ　sŭay　**duu**raawkàp　naaŋfáa
3.SG　きれい　EVD　天使
「彼女はきれいだ。天使みたいだ」

上記のดูประหนึ่ง（ว่า）とดูราวกับは、小説などで用いられる書き言葉として、意味的には入れ替え可能で共に他の副詞句と同じく間接証拠性に属すが、ดูประหนึ่ง（ว่า）の方は置かれる位置が文頭は不可で、その点が通常文頭に立つดูราวกับとは異なる。

こうした語彙的な多様さは、タイ語の特徴のひとつと考える[49]。

８．おわりに

これらの五言語の間では、〔ベトナム語・中国語＜タイ語〕:〔日本語＜朝鮮語〕のように、統語構造の違いを反映する二群間の対比と、その内部での差異を表現することができると考える。すなわち、視覚動詞の多機能性において劣る中国語と南のアジア諸語に対して、東アジアの二言語は文法化がより進み視覚動詞の多機能性が顕著であるというクラスター的対比を示すことができると考える。

本稿で論じたのは、以下にまとめられるように、これら五言語の視覚動詞における文法化に見られるふたつの方向性である[50]。

1	視覚動詞	＞試行マーカー	＞経験マーカー	＞前提マーカー
朝鮮語	보다	＞-아/어 **보**다	＞-아/어 **보**다	＞-아/어 **보**니・-다 **보**면
日本語	見る	＞～て**み**る	＞～て**み**る	＞～**み**たら・**み**ると・**み**れば
タイ語	ดู	＞ดู	＞ดู	＞ดู
中国語	看	＞看	＞	＞看
ベトナム語	xem	＞xem	＞	＞xem

2	視覚動詞	＞証拠性マーカー・証拠性副詞句
朝鮮語	보다	＞-나 **보**다・-를/을까 **보**다・-**볼**게요
日本語	見る	＞～**み**たい
タイ語	ดู	＞**ดู**จะ・**ดู**ท่า・**ดู**ท่าทาง（ว่า）・**ดู**ประหนึ่ง（ว่า）・**ดู**ราวกับ
中国語	看	＞**看**来・**看**起来・**看**上去
ベトナム語	xem	＞**xem** chừng・**xem** ra

本稿では、タイ語の視覚動詞ดูの機能分析を行う上の初歩段階として、孤立語という形態論的特徴を共有するベトナム語と中国語と共にひとつとして、それと構造面で対置される朝鮮語と日本語を別のひとつとする視点から、両者を対比させてこれらの考察を行うという手段を取った。本稿に続く段階として、タイ語の視覚動詞の多機能性に焦点を当てて論じるために、次はベトナム語及び中国語の対応する動詞との違いを考察する研究が続くと考える。

それと共に、少なからぬ言語において見られる視覚動詞の文法化は、今後も具体的な言語事実の渉猟を通して追究して行く価値がある現象と考える。

略号

1.SG　一人称単数、2.SG　二人称単数、3.SG　三人称単数、3.SG.F　三人称単数女性辞
ACC　対格、AUX　助動詞、CAU　使役、CMP　補文標識、CND　条件、CNJ　連接、CNV　副動詞、
CON　試行、COP　繋辞、DEM　指示詞、EVD　証拠性、EXP　経験、FUT　未来、GEN　属格、
IMP　命令、INS　具格、INT　疑問、LOC　位格、NEG　否定、NOM　主格、POL　丁寧、PRF　完了、
PRT　小辞、PST　過去、TOP　主題

付記

本稿は、2019年7月14日に日本女子大学で行われた2019年度日本タイ学会研究大会での口頭発表の内容を、大幅に加筆修正したものです。

査読にあたり、二名の査読者並びに編集委員会から数多くの有益な教示をいただき、顕著な質的向上を得ることができました。謹んで感謝申し上げます。なお、本稿の内容の最終的な責任は、著者本人に帰するものです。

本稿は、JSPS科研費JP16K02634の助成を受けたものです。

註

1）本稿では、実質語ดูが機能語化した形態素を「マーカー」と呼ぶ。
2）視覚動詞を試行の意味に用いる文法化現象は、本稿で論じるタイ語、ベトナム語、中国語、朝鮮語そして日本語にとどまらない。東南アジアではビルマ語なども、北アジアではアイヌ語、エウェンキ語、満洲語文語やモンゴル語が、西・中央アジアではサハ語などのチュルク語族諸方言が、南アジアではヒンディー語などが、視覚動詞を「（試しに）～してみる」の意味に用いる。［Coupe 2018：195-196, 212-213］には、南アジアの言語事例が、［Heine et al. 1991：197］にはニジェール・コンゴ語族のエウェ語の例がある。さらに、文法化と同じとは言えないが、フランス語でもvoir《見る》に試行の意味（‘pour voir’）を認めることができる。これらは、人が物を見るという行為と試しに何かをするという活動が、何らかの関連を持つことを示唆していると考える。
3）［Bybee et al. 1994：5］には、“It is lexical items of this degree of generality that are used in constructions that enter into grammaticalization.”とある。すなわち、漂白に限らず文法化全般については、一般的な意味の語彙の方が、そうでないものより文法化を生じる構文に用いられるという特徴がある。
4）「クラスター」という概念は、査読者の教示による。
5）同書では、‘agent-oriented modalities’の下位分類として、“attempt: the agent attempts to complete the action specified by the predicate. … ‘try’.”と記述している。
6）［Nespital 1997：712］には、ヒンディー語の視覚動詞देखना《見る》の項に“देखना［dekhnā］as second member in perfective and correlating verbal expressions To point out additionally that the speaker should perform the action（himself）in order to convince himself that it can well be carried out（against his disbelief or doubt）”との記述がある。すなわち、この語を用いる時には、話し手は実現性の良否を確認する目的でその行為を行おうとする試行モダリティの意味を表すと考える。
7）「主観化」の定義は、［Traugott 2003：126］によれば以下の通りである。“…the mechanism whereby meanings come over

time to encode or externalize the SP/W's perspectives and attitudes as constrained by the communicative world of the speech event, rather than by the so-called 'real-world' characteristics of the event or situation referred to.”すなわち、語の意味が、言及されている出来事や状況の「実世界」における特性によるというよりも、コミュニケーションが行われる社会背景によって制約される話し手や書き手の視点や態度を、時間の経過の中で、記号化もしくは外在化するメカニズムと定義される。

8）このマーカーを試行モダリティの観点から論じることは、査読者の教示による。

9）より詳しくは、以下のように定義できる。「ある実質的意味を表す形態素がある特定の構文の中で頻繁に使用されるようになり、ある時を経て、ある機能的意味を表す形態素として定着する過程、さらには、ある機能的意味を表す形態素が、同様に、その他の機能的意味を表す形態素として定着する過程」（この定義は査読者の教示による）また、［Heine and Reh 1984：15］は、文法化について、“…an evolution whereby linguistic units lose in semantic complexity, pragmatic significance, syntactic freedom, and phonetic substance, respectively.”と述べ、言語構造の様々な面に広く生じる現象としている。

10）［Heine 2003：586］には、PERSON>OBJECT>ACTIVITY>SPACE>TIME>QUALITYとある。日本語の「～ている・～ておく」も、この序列に該当する文法化の事例と見られる。

11）『広辞苑』は歴史主義に基づく記述をしているので、現代語では使われなくなった意味を含む。

12）この辞典は、試行マーカーの보다には別の項目を立て、以下の記述をしている。①（試す意を表して）…（し）てみる：②（経験を表して）：

13）査読者の教示による。

14）日本語や朝鮮語にも同種の意味の記述があり、またタイ語と同じくインドシナ半島にあるベトナム語の視覚動詞xemにも、xem bói《占いを見てもらう》、xem ngày《良い日を選ぶ》、xem số《星占いをする》、xem tử vi《星占いをする》、xem tuổi《相性をみる》、xem tướng《人相を見る》などの似た意味が見られることは、文化的な近似性が認められ興味深い。

15）coiはベトナム南部の方言形と言われる。

16）但し、次の例ではดูが使われているが、意志的な視覚情報受容とは言えないので、この動詞の意志性に関しては常に認められるわけではない。この点については、査読者から教示を得た。

ห้อง	นี้	ถ้า	ทา	สีขาว	จะ	**ดู**	สว่าง	ขึ้น
hɔ̂ŋ	níi	thâa	thaa	sǐikhǎaw	càʔ	**duu**	sawàaŋ	khɯ̂n
部屋	この	もし	塗る	白色	AUX	見る	明るい	～になる
นะ								
náʔ								
PRT								

「この部屋は、白色を塗ったらもっと明るく見えるよ」

17）非意志的視覚動詞の典型例は、「～を見かける・目にする」である。この点については、査読者から教示を得た。

เมื่อวานนี้	ตอน	ขึ้น	รถเมล์	**เห็น**	เคอิ	เดิน	กับ	โยโกะ
mɯ̀awaanníi	tɔ̀ɔn	khɯ̂n	rótmee	**hěn**	key	dəən	kàp	yoko
昨日	時	乗る	バス	見る	ケイ	歩く	と	ヨウコ

「昨日、バスに乗った時、ケイがヨウコと一緒に歩いているのを見かけた」

18）［金谷他 2019：171］では、日本語と朝鮮語、タイ語のほか、クメール語などの試行マーカーの意味が対照的に可視化されている。

19）“bleaching”について、［Heine 2003：579］は'loss in meaning content'とし、［Sweetser 1988：390］は、'a sense becomes more general by *losing features*.'と述べている。

20）We regard HAVE *got* ［*to*］ as idiomatic, because the element *got* is fixed, and because it derives its meaning from the combination as a whole（often shortened as *gotta*）. In this connection note that the meaning of *got* is 'bleached'（i.e. has lost its original meaning）, and does not carry the meaning 'possess'. ［Aarts 2011：301］

21）この点については、査読者から教示を得た。

22）単体の「みる」は多義語で、共起形・複合体の「～てみる」は単義語であり、前者と後者は上位下位・包含被包含の関係にあると考える。後述の「みたい」も単義の共起形・複合体の例と考える。この点は、査読者の意見に基づいて考察した。

23）タイ語では視覚動詞เห็นに「理解する・分かる」という意味がある。査読者の教示による。

24）本稿の例文は、チェンマイ出身の20代女性及びバンコク出身の30代女性のタイ語母語話者によるチェックを経ている。

25）この点については、査読者から教示を得た。

26）朝鮮語では、非意志的行為にもこの形式が用いられる。

기뻐서	눈물을	흘려	**보**기는	그	때가	난생
嬉しくて	涙ACC	流す	EXP.TOP	DEM	時NOM	生まれて

처음이였다.

初めてPST

「嬉しくて涙を流したのはあの時が生まれて初めてだった」

27）タイ語母語話者によれば、例文（18）でもลองと共に用いた方が語調はよいと言う。この点は、6節で見るように、ดูの自立性の低さを表していると考える。

28）経験用法は、試行用法とは文末に位置するという統語的特徴を共有する。また、行為から知識を得るという経験の持つ論理関係は、後述の節連接用法の持つ、前提から帰結につながるという論理関係と意味的特徴が共通すると考える。そこから経験用法は両者の中間に位置づけられると考える。これらの三用法の関係については、査読者の意見に基づいて考えを発展させた。

29）-아/어 보니は、過去に起きた試行や経験を意味する表現で、動作主が何らかの行為を実際にすることで気づいたことを意味する。

30）例文（20）（21）の分析については、査読者から有益な教示を得た。

31）日本語の例文（19a）で実質語の「買って（それを目で）見たら」の意味になるのは、「買って」と「みたら」の間にポーズを置いたり、「みたら」にプロミネンスを置く場合で、そうでない限りは試行マーカーとしての解釈が優先的になると考える。

32）例文（29d）（30）の分析については、査読者から有益な教示を得た。

33）例えば、古英語の数詞の「一」を表す語から不定冠詞が機能語として分かれた後も、「一」を意味する数詞はそのまま実質語としても用いられる例がある。

34）例えば、朝鮮語で먹어 보다は「食べてみる」という試行の意味だが、動詞먹다《食べる》の語幹に-고が付いた、먹고 보다となると、「（先に）食べて（その後に）見る」で、試行用法とは異なる形式の보다は実質語の意味を持つ。

35）「ハイブリッド形態素」という用語とその概念に関する説明の部分は、査読者の教示による。

36）日本語でも「*～に気づいてみた。」「*～を知ってみた。」「*～を分かってみた。」という表現は不自然なので、このタイプのマーカーは文中においてのみ前件に用いるという制限がある。これらは、『広辞苑』⑧㋑の「ある事実に気付く、またはある事実が成り立つ条件を示す」にあたる。

37）すなわち、เข้าใจという動詞は、行為としての理解を意味するものの単独では意志性に乏しいため、意志性（能動、意欲conation）の意味を保持する動詞ดูに由来する試行マーカーとは親和性が低くなる。一方、動詞ลองを含む例文（31a）（31b）のลองเข้าใจや、例文（33）のทำความเข้าใจといった表現は意志性をより明瞭に有するため、試行マーカーดูとも自然に共起しうると考えられる。この点については、査読者の意見を反映した。

38）この点については、査読者の意見を反映した。［Bybee and Pagliuca 1987：115, 116］では、以下のように述べて、英語の未来時制を表すwill, shall, be going toの意味的差異がそれぞれ願望や義務、移動などの元々の意味の違いから来ていることを論じている。“We claim that the contemporary modal nuances of *shall* and *will* are direct continuations of their original lexical meanings — those of *shall* are all related to obligation and those of *will* are related to desire. … The development of the meaning of the *be going to* construction and its range of uses differs from *shall* and *will* because its original meaning had to do with motion in space rather than the internal and external conditions of desire and obligation specific to humans.”

39）「足音が聞こえたので、誰かが来た**み**たいです」が推量の例文である。なお、［杉浦 2012］によれば、推量の「～みたいだ」は文法化以前の「～（を）み（＝見）たようだ」からの変化で、比況、例示と推量の三用法があるとする。比況と例示だけでなく、推量もある事象と別の事象の間に類似性があることに基づくが、その類似性を認識する点が視覚動詞の多義性に含まれると考える。［杉浦 2012：51］によれば、「～みたいだ」が推量に用いられるのは、名詞修飾では20世紀初期で、文・節につくのは1930年頃以降とされている。

40）누가　　왔나　　**본**다.（推量）
誰かNOM　来るPST　CNV
「誰かが来たらしい」

41）차라리　　죽을까　　**본**다.（漠然とした意志）
いっそ　死ぬ　CNV
「いっそ死んでしまおうか」

42）［Traugott 2003：129-130］は「間主観化」を次のように定義する。“… the semasiological process whereby meanings come over time to encode or externalize implicatures regarding SP/W's attention to the ‘self’ of AD/R in both an epistemic and a social sense.”すなわち、認識的かつ社会的両方の意味で、話し手や書き手が、聞き手や読み手「自身」への配慮について含意することを、時を経て記号化もしくは外在化する意味論的プロセスと定義される。この「配慮」に相手への敬意が含まれると考える。［Narrog et al. 2018：184］は、［Traugott 2003：135］に言及しつつ、“Honorifics in general are a fertile ground for observations on intersubjectification.”と述べる。すなわち、敬語一般には間主観化の豊富な事例を見出すことができるとのことで、次の注で言及する朝鮮語の事例もこれにあたると考える。

43）この形式が動詞가다《行く》につくと、対人モダリティ表現として主観化がより進んだ段階の丁寧な表現となる。すなわち、가**볼**게요、가**보**겠습니다という形式で、退出する者がその場に残る者に言い残す表現である。これは発信者と受信者との関係を反映するもので、보다が婉曲な意味を持ち、目上の者に対する丁寧な辞去表現となり、日本語の直訳「行きます」よりはそれぞれ「失礼します」「失礼いたします」にあたる。この例は、語用論的な意味の拡張により、話し手の主観的な対人的態度を表す手段になっている点で、主観化の次の段階として（いわゆる一方向仮説では、‘nonsubjective>subjective>intersubjective’と記される［cf. Traugott and Dasher 2001：187, 225］）、話し手だけでなく聞き手にも及ぶ主観性である間主観性の具現化と考える。

44）「文修飾副詞句」は、「隣接する語ではなく文全体を修飾する副詞句」と定義される。この定義は査読者の意見を反映した。

45）［Aikhenvald 2004：63］は、“INFERENCE: based on visible or tangible evidence, or result”と述べている。

46）**xem** chừngのchừngは「凡そ・約」を、**xem** raのraは「外へ」を意味する。

47）“**看**来”“**看**起来”“**看**上去”で、動詞の後に続く“来”“起来”“上去”は、方向補語として抽象化された方向性を表す。

48）［呉蘭 2009：58-61］によれば、下の例文（a）のように単にひとつの事象を述べるだけでは“看来”は使えず、例文（b）のように事象の変化を述べる時に判断の根拠としてこの表現を用いるとのことである。話し手が事象の変化を認識したという意味を、この副詞句は表していると考える。

（a）* **看**来　下　雨　了。
EVD　降る　雨　PRT
「雨が降ってきたようだ」

（b）**看**来　雨　下　大　了　呢。
EVD　雨　降る　大きい　PRF　PRT
「雨脚が大きくなったようだな」

49）同じ視覚動詞でも**ดู**と異なり、非意志性動詞である**เห็น**を組み込んだ副詞句がどのような機能的差異を有するかは、今後考察すべき課題と考える。この点は、査読者の教示による。

50）この点は、査読者の意見を反映した。

参考文献

Aarts, Bas 2011 *Oxford Modern English Grammar*, Oxford University Press.

Aikhenvald, Alexandra Y. 2004 *Evidentiality*, Oxford University Press.

秋元実治 2013『文法化と構文化』ひつじ書房。

――― 2014『増補　文法化とイディオム化』ひつじ書房。

Ansaldo, Umberto, Walter Bisang and Pui Yiu Szeto 2018 "Grammaticalization in isolating languages and the notion of complexity." In Heiko Narrog and Bernd Heine eds, *Grammaticalization from a Typological Perspective*. Oxford University Press.

Bybee, Joan and William Pagliuca 1987 "The evolution of future meaning." In Anna Giacalone Ramat, Onofrio Carruba and Giuliano Bernini. eds. *Papers from the 7th International Conference on Historical Linguistics*. John Benjamins.

Bybee, Joan, Revere Perkins and William Pagliuca 1994 *The Evolution of Grammar*, The University of Chicago Press.

Coupe, Alexander R. 2018 "Grammaticalization processes in the languages of South Asia." In Heiko Narrog and Bernd Heine eds, *Grammaticalization from a Typological Perspective*, Oxford University Press.

大東文化大学中国語大辞典編纂室 1994『中国語大辞典』角川書店。

ドラール・オソル・朝克、中嶋幹起 2005『エウェンキ語への招待』大学書林。

Heine, Bernd 2003 "Grammaticalization." In Brian Joseph and Richard Janda. eds. *The Handbook of Historical Linguistics*, Blackwell.

Heine, Bernd and Mechthild Reh 1984 *Grammaticalization and Reanalysis in African Languages*, Helmut Buske.

Heine, Bernd Ulrike Claudi and Friederike Hünnemeyer 1991 *Grammaticalization: A Conceptual Framework*, University of Chicago Press.

Hopper, Paul J. 1991 "On some principles of grammaticization." In Elizabeth Closs Traugott and Bernd Heine. eds. *Approaches to Grammaticalization*, Vol. I. John Benjamins.

Hopper, Paul, J. and Elizabeth C. Traugott 2003 *Grammaticalization*, 2nd edn, Cambridge University Press.

金谷由美子他 2019「気づきにくい学習者／母語話者間のミスコミュニケーション：V-テミルと韓国語 V-boda、タイ語 lɔɔŋ-V-duu、クメール語 sa: k-V-mə̀: l との対照」『日本語・日本文化研究』29。

川本邦衛編 2011『詳解ベトナム語辞典』大修館書店。

松木正恵 1997「「見る」の文法化 ―「てみると」「てみれば」「てみたら」を例として―」『早稲田日本語研究』5。

メイエ・アントワーヌ、松本明子編訳 2007『いかにして言語は変わるか ―アントワーヌ・メイエ文法化論集―』ひつじ書房。

Narrog, Heiko, Seongha Rhee and John Whitman 2018 "Grammaticalization in Japanese and Korean." In Narrog, Heiko and Bernd Heine. eds. *Grammaticalization from a Typological Perspective*, Oxford University Press.

Nespital, Helmut 1997 *Dictionary of Hindi Verbs*, Lokbharti Prakashan.

岡滋訓 2012『タイ日辞典』ボイス。

岡野賢二 2010「現代ビルマ語のアスペクト表現について」『東京外国語大学　語学研究所論集』第 15 号。

大阪外国語大学朝鮮語研究室 1985『朝鮮語大辞典』角川書店。

小沢重男編著 1994『現代モンゴル語辞典　改訂増補版』大学書林。

ポポーヴァ・ナヂェージダ他 2007『サハ語会話帳』九州大学人文科学研究院／言語学研究室

新村出編 2018『広辞苑　第七版』岩波書店。

杉浦滋子 2012「「～みたいだ」文法化の過程」『言語と文明』10。

Sweetser, Eve E. 1988 "Grammaticalization and Semantic Bleaching". *Proceedings of the Fourteenth Annual Meeting of the Berkeley Linguistics Society*. Berkeley Linguistics Society.

田村すず子 1996『アイヌ語沙流方言辞典』草風館。

冨田竹二郎編著 1997『タイ日大辞典』めこん。

Traugott, Elizabeth C. 2003 "From Subjectification to Intersubjectification." In Raymond Hickey. ed. *Motives for Language Change*, Cambridge University Press.

Traugott, Elizabeth C. 2011 福元広二（訳）「文法化と（間）主観化」高田博行他（編著）『歴史語用論入門　過去のコミュニケーションを復元する』大修館書店。

Traugott, Elizabeth C. and Richard B. Dasher 2001 *Regularity in Semantic Change*, Cambridge University Press.
呉蘭 2009「証拠性表現の日中対照研究 ―「ヨウダ」、「ラシイ」、「（シ）ソウダ」を中心に―」東北大学大学院国際文化研究科国際文化交流論専攻修士論文。
山﨑雅人 2016「日本語と朝鮮語における視覚動詞の試行相文法化用法の展開」『日本認知言語学会論集』16。
――― 2017「アルタイ諸語、朝鮮語と日本語における視覚動詞の試行相文法化用法の展開」『言語処理学会　第23回年次大会発表論集』
――― 2018a〈满文与阿尔泰系、朝鲜语以及日语中的视觉动词语法化问题初探〉《满学论丛》第七辑。
――― 2018b「中国語における視覚動詞の試行相文法化用法の展開」『言語情報学研究』14。
――― 2018c「ベトナム語の視覚動詞の試行相文法化用法の展開」『日本言語学会第156回大会予稿集』
横川澄枝 2000「“看来”, “看起来”そして“看上去”について」『お茶の水女子大学中国文学会報』19。